



## 体育大会と期末テストお疲れ様でした！

4ヶ月あった2学期も、気が付けば残り1ヶ月を切りました。今年は、熱中症対策のために、体育大会と合唱コンクールを入れ替えて実施しました。11月に実施した体育大会では、熱中症の心配無くてきたのは本当に良かったと思います。当日は、お天気にも恵まれて、ひなたは暖かかったですね。体調を崩す人もほとんどなく、精一杯競技する姿を見て、改めて中学生の皆さんはすごいなあと感じました。特に、前日まで諦めずに練習した「みんなでジャンプ」は、各クラスで円陣を組んで気合を入れた後に、5分間の時間いっぱいまで使って、チャレンジしましたね。その様子を見ていて胸が熱くなりました。「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という精神で、自分ができることを一生懸命頑張る姿が、どのクラスにも見られて、とても頼もしく思いました。



体育委員会考案  
「借人ぐらしのタジリッティ」

そして、体育大会が終わった2週間後に、2学期の期末テストが実施されました。インフルエンザの流行が田尻中にも来て、3年生は学年閉鎖になりましたが、閉鎖したおかげで、田尻中学校の期末テストと3年生の学力診断テストを予定通りに実施することができました。期末テスト9教科のテスト勉強は毎回大変だと思いますが、いかがでしたか？特に1年生の人たちにとっては、テスト範囲が広い期末テストは、中間テストの2倍くらい大変だったでしょう。また、3年生の皆さんは、期末テストに続いて、3回目の学力診断テストも実施されました。いよいよ進路選択に向けて、具体的な学校名を出して決定する時期に入りました。不安もあると思いますが、一番に考えてほしいのは、将来、自分がやりたいことややりたい自分を考えて、そこへ行く道がどれになるのかをよく考えることです。高校への進学がゴールではありません。その先の自分を想像して、進路を考えることがで

ければ、どんな結果にも納得することができます。一人で悩んでいたから、保護者の方はもちろんですが、担任の先生や学年の先生など、より多くの先生に相談してみてください。それでも迷っている人がいるなら、校長先生にも声をかけてください。

## 各委員会から発表された活動目標と活動内容！

11月10日(月)に全校集会が開催され、後期の委員会から活動目標と活動内容の発表がありました。生徒の皆さんは、役員選挙の立会演説の時と同じ雰囲気を作って、各委員会の代表者からの発表を聴く姿勢が見られ、とても立派でした。改めて、各委員会の活動目標と活動内容を記しますので、確認してください。

### ◆生徒会

活動目標:さいごまで笑い合える学校  
～一人ひとりが輝き、笑顔咲くアオハル～  
活動内容:体育大会や合唱コンクール、集会での司会進行  
入学式や卒業式の挨拶、生徒会サミット参加  
たじりっちポスト、集会で校歌を歌う

### ◆代議員

活動目標:メリハリをつける！お互いをもっと知る！  
活動内容:集会時の整列と点呼、授業の号令、全員がポジティブになるプラスの声掛け、交流の場を増やす

### ◆生活委員

活動目標:美しく綺麗綺麗なスクール  
～学校を裏で支えて笑顔に～  
活動内容:水やり、赤い羽根・緑の羽の共同募金

### ◆体育委員

活動目標:いい意味で盛り上がる体育大会にして、ケガなく楽しい思い出になる体育大会と体育の授業にする  
活動内容:体育の授業での号令と準備体操など、体育大会の運営と手伝い、体育大会での整列や体操

### ◆文化委員

活動目標:新しい自分と出会える図書室  
～めざせ田尻中貸出1000冊！～  
活動内容:昼休みの図書室当番、図書室の活性化をめざした活動、しおりや本の紹介冊子の作成、本の福袋イベント、読み聞かせなど

### ◆厚生委員

活動目標:健康第一 ～自分の健康は自分で守ろう！～  
活動内容:消毒液と石鹼の補充、給食台の消毒、健康に関する啓発活動



## こども園と小・中学校合同の図画作品展(12/14)に向けて！

今年度も、12月12日(金)の午後に、田尻町立小学校を会場にして、こども園・小学校・中学校の全ての児童と生徒の図画作品が合同で展示されます。10月の合唱コンクールの日に、美術室・図書室・被服室で、美術クラブ・家庭科クラブ・コンピュータークラブの作品を展示しましたが、その中から、1年生・2年生・3年生の絵画作品と美術部の絵画作品が合同図画作品展で展示されます。当日は、毎年、中学校から、1年生が一貫教育交流行事として小学校まで見学に行きます。美術部の作品は、子ども園や小学校の先生方からも感動の声が届きます。「さすが中学生！」です。



1年生作品 「遮光器土偶の色塗り」  
2年生作品 「防火図画ポスター」  
3年生作品 「着物のデザイン」

## 不審者対応訓練を教職員で実施しました！

11月27日(木)の午後に、教職員対象の不審者対応訓練を実施しました。目的は、不審者侵入時における、子どもの安全を確保する対応の確認です。当日は、泉佐野警察署の方に来ていただいて、訓練を行い、その後に指導講評をいただきました。訓練内容は、不審者発見時の初期対応、さすまた使用方法の確認、110番通報、校内への緊急放送、教室施錠と机といすでバリケードを作る方法の確認、けが人が出た際の対応確認、記録係の確認等です。

日頃の訓練により、素早い行動につながると共に、課題の確認もできました。今後の対応に活かしていきたいと考えています。

(校長 池本 勝利)





## 今後の予定

12/8(月)	全校集会
12/12(金)	園小中合同作品展
12/15(月)	全校集会(6限:交通安全教室)
12/17(水)	5 限授業(部活動なし)
12/18(木)	期末三者懇談(～23(火))給食なし
12/24(水)	終業式
12/25(木)	冬休み開始(～1/7(水))
R8 1/8(木)	始業式
1/9(金)	【3年生】第4回 学力診断テスト
1/13(火)	5限授業
1/14(水)	【1・2年生】大阪府チャレンジテスト
1/16(金)	【1・2年生】英語検定受験
1/21(水)	【3年生】学年末テスト 1週間前
1/28(水)	【3年生】学年末テスト(～30(金)) 【小6保護者対象】入学説明会(15時 ふれ愛 C)

## 自分の意見を持つ・信念を継続する

先日、大阪府内の中学生・高校生がスポーツの世界で活躍する様子を取り上げた新聞を読みました。新聞社と大阪府教育庁が共同で制作して定期的に各中学・高校に配布されています。皆さんも読まれたと思いますが、私なりに印象に残ったことを書きます。

1 ページ目にバレーボール界で活躍されている高橋 藍(たかはし らん)選手が紹介されていました。彼は京都市出身で、イタリアの1部リーグで活躍後、現在は大阪・サントリーサンバーズに所属し、日本のバレー界を盛り上げてくれています。よくTVでも試合が中継され、石川選手・西田選手・関田選手など、彼とともに攻撃的でガッツあふれるプレイや粘り強いレシーブに加えて、フェイクトスやくりりと回転して空いたコースに打ち込むなど、見る者の意表を突くプレイは、バレーボールの魅力を惜しみなく感じさせてくれます。

彼は、もともと兄にあこがれてバレーボールを始めたそうです。

運動神経も抜群で走るのもボールを投げるのも得意だったそうですが、バレーボールを好きになったのは高校時代になってからとのことだそうです。

さて、お話の本題はここからです。

高橋選手が海外リーグに挑戦した大学2年時、痛感したことがあったそうです。それは、

### 「自分の意見をしっかりと持つこと。」

バレーボールでも、プライベートでも常に「自分はどうしたいのか」が問われる海外では、日本人に見られる「どちらでもいい」「あなたに合わせるよ」など、相手を尊重したつもりでも、はっきり自分の意見や態度を求められるそうです。

常に「自分はどうしたいのか」「自分はどうあるべきか」といった「自分軸」をしっかりと持つことの重要性を学んだことで、その後の選手の成長にとっても大きな影響を与えたそうです。

確かに、日本で暮らしていると、自分の考えを求められても、それ以上に他者に合わせようとする雰囲気が強いように思います。その背景には、「滅私奉公」という言葉に代表されるように、自分の意見はさておいて他者を優先する歴史が続いてきたことも確かでしょう。

その反面、自分の考えがなくても「みんな(多くの人)の意見に合わせよう」とする傾向が強くなります。これを「同調性バイアス」と言います。“みんなに合わせる”と聞くと、“団結することはいいい事”“皆が1つになることは素晴らしい事だ”と思います。

しかし、自然災害などの非常時には、「今回も大丈夫だよね」と安心したいと願う「正常性バイアス」とともに「みんなも避難しないでいいって言ってるから」と合わせる同調性バイアスが重なって大惨事が起きる危険性もあります。東日本大震災で大きな被害が出た事実が物語っています。

少し話がそれましたが、高橋選手は海外生活を経験したことで「自分の意見をしっかりと持つことの重要性」に気付いたのです。



もう一つ、高橋選手がインタビューのなかで「力をつけるためにやってきたこと」を問われ、中学時代からストレッチを続けてきたことを挙げ、そのおかげで体が柔らかくなり、今までだったらあきらめてしまうコースに飛び込めるようになったことで守備範囲が格段に広くなり、けがも少なくなったと述べています。

最後に、好きな言葉を聞かれ、

### 「勇気と信念が世界を変える」

と答えています。若い世代の人たちに海外に出ることの重要性を強調し、日本との違いに気づく事や、外国の方の考えを取り入れるきっかけにもなること、改めて日本の良さに気づく事ができる事を挙げています。

今回の新聞では剣道に取り組む中学生が「人間的成長なくして剣道の成長はない」と考え、周囲の支えに感謝し、その応援に応えるためにも活動に取り組んでいる様子が紹介されています。また、柔道にはげむ中学生は「反復練習」を活動の中心にしており、大切だと感じたことを繰り返し練習して体に覚えこませ、自分の得意技に仕上げるまで取り組んでいる様子が掲載されています。2人とも自分の考えをしっかりと持っていますね。

さて、田尻中学校の校訓は「自立」と「友愛」です。

自分の意見を持つことはまさに自立への第一歩です。日々の学習活動の中で新しく物事を知ることは楽しい事です。驚きがあったり、もっと知りたいと思ったり、純粋に「なぜ?」と思うことも。そこから、「自分は〇〇だと思う」「彼(彼女)はそう言うが私の考えは違う」との感情が生まれる。それを、正々堂々と語れる人になってほしいと願います。

そして、互いに考えを出し合うことで、よりいいものに高めていく。これが「友愛」です。時に意見がぶつかることだってあります。それを乗り越えることで相手をより理解し、本音を出し合い、本気で相手を楽しめるようになる間がらにも、育ってほしいと思います。

(参考資料 大阪ティーンズ アスリートプレス 令和7年11月第25号)  
(教頭 横井武志)